

短中期の選択肢と長期の選択肢を組合せたシナリオの 検討に関するコメント

- 短中期の選択肢と長期の選択肢とを組合せたシナリオを検討する際には、①判断の時期、及び②将来技術についての程度の開発レベルを維持しているか、が重要になる。
- 下の図は、将来技術である「FBRサイクル」の開発レベルを3つのケースに分けて検討した例である。以下の点が重要である。
 - どの程度のレベルで開発を行うか(①従来通りの積極的开发、②産業界を含めた技術維持、③開発を中止し研究のみ)によって、実現し得る長期的な選択肢の幅が異なる。
 - 実用化に向けた積極的な開発を行うことなく、長期に亘って技術力を維持することは困難である。数年が限度と考えられる。よって、「技術維持」とする場合は、数年後の判断ポイントが重要である。

核燃料サイクルに関わる政策選択肢
(FBRサイクル開発への対応に着目して考えた場合)

